

異文化交流

田中 絢介

僕はカンボジアとベトナムに行きました。今回の渡航で良かったのは有名な観光地に行けたことはもちろんですがやはり、異国の文化に触れて、現地の人と交流できたことです。

まずカンボジアで驚いたのは客引きがすごいこと。トゥクトゥクという客車をバイクで引いてお客さんを運ぶ乗り物があるのですが、街を歩けば、トゥクトゥクの運転手が自分のトゥクトゥク乗らないかといったように声をかけてくるのです。街の至る所にいるので乗る予定がない時はいちいち”No thank you”と断りながら歩いたのを覚えています。その時はあまりにたくさん声をかけてくるので面倒くさい人たちだなあとと思っていたのですが、日本に帰ってきて静かに道を歩いているときなど、何だか物足りないなあと思うことがありトゥクトゥクが恋しくなりました。

そしてベトナムには、トゥクトゥクはないのですが、今度はバイクタクシーの運転手が声をかけてきます。日本人観光客を相手にしているからか、片言の日本語を話す人もいました。最も印象に残っているのはラムさんです。その日は、自由行動の日で僕はひとりでぶらぶらと歩いていました。すると例によってバイクタクシーの運転手が声をかけてきました。その人は「ラムさんです。」と名乗りました。彼は、いま日本で流行っているギャグは何かを尋ねてきました。僕は、しばし悩んでスギちゃんの「ワイルドだろ～」を教えてあげました。すると次にラムさんは、「ベトナムの女はどう？」とたずねてきました。そしてこれを機にラムさんの下ネタトークが始まりました。どこでそんな日本語を学んだんだと思いながらも僕は彼との会話を楽しんでいました。ラムさんは今日もまた観光客を捕まえて話をしているのだろうかと思ったりします。

基本的にあたたかくて気さくな人が多いのですが、中には悪だくみをする人もいました。一人でベトナムの町を散歩していると、おばちゃん三人組に声をかけられました。そのおばちゃんたちもまた、片言の日本語を話していました。ベトナムのことや日本のことなどひとしきり会話した後一人のおばちゃんが「日本のお金が欲しい。自分の持っているお金と交換しよう。」と提案してきました。今考えるとかなり怪しいですが、その時の僕は浮かれておりあっさりと1000円札を渡してしまいました。そしておばちゃんからはフィリピンのお札100ペソをもらい、お金の交換が終わるなり、サヨナラと言って去って行きました。その時初めて、ああ、これは一杯食わされたなと思いました。後で調べてみると案の定1000円の価値はなく思わずため息が出ました。

このように良くも悪くも、異なる文化の人との交流は勉強になるし、非常に刺激的で、貴重なものだと思います。これからいろいろな人と出会い、いろんな経験をしていきたいです。